

「審議会等の会議結果のお知らせ」  
スポーツ推進審議会の会議結果について

令和元年5月27日に開催しました審議会の概要は下記のとおりです。

記

- 1 開催日時 令和元年5月27日（月） 15時00分から16時10分
  - 2 開催場所 佐賀市役所大財別館4階 第3会議室
  - 3 出席者の氏名  
林正博（会長）、坂元康成（副会長）、徳光清孝、大坪泰、吉永美紀、伊東健児、  
山田力也、西村文子、田中夏美、嘉村英哲、久米ハル子、光武香織、原敏朗、  
渡邊由美子  
〈事務局〉  
古賀地域振興部長、稲富スポーツ振興課長、馬郡スポーツ振興課副課長兼スポーツ  
係長、吉谷スポーツコンベンション係長、堤スポーツ係主査、前田スポーツ係主任、  
副島スポーツ係主事
  - 4 欠席者の氏名  
池田ひとみ
  - 5 議題  
「第2次佐賀市スポーツ推進計画」素案について（資料1・2）
  - 6 会議の公開又は非公開の別 公開
  - 7 非公開の理由（会議を非公開とした場合に限る。）
  - 8 傍聴者数（会議を公開した場合に限る。） 1名
  - 9 発言の内容
- ◎ 「第2次佐賀市スポーツ推進計画」素案について、資料に沿って事務局より説明

【主な意見】

- ◎ キャッチコピーについて
- ・ 現計画を立てる段階で、市民の皆様にスポーツの振興の仕方がよくわかるようにと、キャッチコピーをつけた。第2次計画では、このキャッチコピーは削除するのか。
  - ・ 国民スポーツ大会を何でやるのかというのは、競技力向上もあるが、佐賀県民がいかに健康で長生きできるか、そして楽しくやれるか、これが一番大切だと思う。  
次期計画が2024年までなので、「国スポを契機にみんなでスポーツ」と言うようなキャッチフレーズで、そのあとのことも考えながらやっていく。また、施設については「使いやすい施設開放」などのキャッチフレーズだと、市民がスポーツに参加できるような感じがする。

(事務局)

現計画では「生涯スポーツの推進」の具体的施策にはキャッチコピーがついているが、「競技スポーツの推進」「スポーツ施設の整備と活用」にはキャッチコピーがない。

削除する方向で考えたいと思っているが、委員の意見をお聞きして再度検討したい。

◎ 地域のスポーツ活動の推進について

- ・ライフステージに応じたスポーツの推進に「地域のスポーツ活動の推進」だけが残っているのにはちょっと違和感がある。

- ・各世代については、個人でスポーツをしようと思ったら推進できるが、それだけで終わってしまうとコミュニティの形成は出てこない。

ジュニアスポーツやスポーツ少年団などの活動が、地域のコミュニティの形成につながっているかと言えば、そうでもない。

地域のスポーツ活動は、佐賀市、校区体協の実態を踏まえながら、地域のスポーツ活動の推進について、話し合っていた方がいいのかなと考えているので、ぜひ入れて欲しい。

- ・高齢者のスポーツ推進については、老人クラブをはじめ、高齢者が一番スポーツをしているのではないかと思う。

しかし、子どもや障がい者、地域の皆さんと一緒にスポーツを行うことは少なく、高齢者は高齢者だけという人が多い。

- ・地域のスポーツ活動の推進ってというのは進んでいるような気がする。多様性に対応するような仕組みづくり等がテーマになるのであれば、ターゲットで並べているという表現が、いいのではないかと思う。

- ・地域のスポーツ活動の推進については、表現や体系図の位置等、議論が必要かと思う。

市内を見ても市民体育大会の出場者の確保などが、厳しくなってきたところもあれば、逆に新しい人材が発掘できて、参加できるようになったところもあり、校区によって差があるように感じている。

現計画の中でも、各種団体と連携して地域のスポーツ活動を推進するように書かれているが、現実はできていないように思うため、現計画の具体的な中身の検証を行い、それを新しい計画に、どこにどんな情報を入れ込んでいくのかというのを、議論できればと思う。

(事務局)

- ・地域のスポーツ活動の推進では、各世代に対して横断的に事業に取り組むものと捉えている。次回は、具体的な取り組みの下に文章を入れ、改めて骨組み（具体的施策）の入れ替え等についても審議したい。

◎ SAGAスポーツピラミッド構想（SSP）について

- ・時期計画期間中の、大きなイベントは国民スポーツ大会・全国障害者スポーツであるが、キーワードとしては入っているが、表現としてこれでいいのだろうか。

県が打ち出しているSSPという言葉、選手のセカンドキャリアをサポートしたり、競技者がさらに定着したりするようなどころになるかと思うが、この第2次の計画の中にSS

Pという言葉がひとつも文言としてないが、それでいいのか気になる。

- ・SSP対応と佐賀市とのつながりが、今回の計画では、さらっと触れられている感じがするが、実務段階でどう展開していくのか。

戸上電機がトップレベルのコーチを呼ぶなど、さらに陸上競技に力を入れている。その中で、行政として、あるいはこういう推進計画として、そういう企業等に対して援助、資金的なものも含めて、援助していくのが少し薄いのかなと思う。

(事務局)

- ・国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催に向けての2つが、この5年間で一番重要なキーワードになるかなと思う。
- ・県のSSPに対応するのは、競技スポーツの推進の「競技力向上のための支援・連携」の「アスリートの発掘・育成のための支援体制の整備」というところで、佐賀市で担える部分である、すそ野拡大に向けた取り組みを、文言として織り込んでいきたいと考えている。企業への支援というところについては、まだ具体的ではないが、支援の仕方については今後協議をしたい。
- ・アスリートのセカンドキャリアについては、大きな課題の一つであると思うが、それを人材不足にどう生かせるかというのは、県や教育委員会と連携が重要である。次期計画の5年でどこまで踏み込めるかは協議が必要。

#### ◎ ジュニア層の育成

- ・トップアスリートが顕著な成績を上げたとしても、今までの国体を見ても、その後じり貧になっている。

ジュニア層の育成は、生涯スポーツとしてのつながりというふうに書いてあるが、トップアスリートを作りながら、ジュニア層への競技力向上のための支援・連携が非常に大事だと思う。企業への応援ということも含めながら、ジュニア層の強化をロングランでどうやって続けていくのか、具体的な展開を記載して欲しい。

#### ◎ スポーツによる交流の推進

- ・昨年度、ニュージーランドの陸上選手が子どもたちに指導し、触れ合ってくれたことは、非常に良かったし、それで成長した子どももいる。

合宿等を通して、国際交流だけでなく、トップアスリートが、競技団体やスポーツ少年団の子どもたち等と間近に触れ合えるということを強調して欲しい。

(事務局)

- ・「競技力向上のための支援・連携」の「トップチームやアスリートとの交流事業実施」の中で、ニュージーランドの陸上選手の合宿の時のように、今後も地元の小学生等と集う場を持っていきたいと考えている。その点はこの骨組みの後に、具体的な内容というところに入れていく。

◎ 女性のスポーツ推進について

- ・ビジネスパーソンと女性のスポーツ推進というのがあるが、女性は実施率が低いことからこ入れをするということなのか、お勤めをされていない女性をイメージしているのか、これだけ見たときに、女性ということのみ記載されているのに少し違和感がある。どのようなイメージで具体的にどのように取り組みを進めていこうとしているのか。
- ・アンケートの詳しい分析がないと、実際に取り組もうとした時にどうしたらその実施率が上がるか難しいのではないか。

(事務局)

- ・アンケートの結果から、女性のスポーツ実施率が低かったということがあり、ここで敢えて女性という表現をしている。
- ・前回のこの審議会の中で委員から、女性のスポーツ実施率が低いのは子育てや家事を女性の方が担っているからではないかというような観点からのご意見もあったので、そういうところも含めて、いろいろな考え方をこちらで検討しながら、この下の文言の中で盛り込んでいく。

◎ 体育協会の名称について

- ・日本体育協会の名称が日本スポーツ協会になったが、市町の体協はどうか。新しい計画の中の文章は、佐賀市体育協会がいいのか。次期計画の5年間で、佐賀市スポーツ協会になると思うが。

(佐賀市体育協会より)

- ・佐賀市体育協会も佐賀市と連携して、佐賀市民体育大会の名称を佐賀市民スポーツ大会に変える時点で、佐賀市体育協会と各校区の体育協会を同時に名称変更ができないか、提案をしたいと思っている。変更には、1年程度の余裕を持ちたいということで市と話をしている。

10 その他 次回会議日程について事務局から報告

11 問い合わせ先

佐賀市 地域振興部 スポーツ振興課

担当者 馬郡

電話番号 0952-40-7360